

1 学年 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 1 学年研究目標

学び合いを育てる授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教材とのかかわり

○ 読み、聞く、話す、基礎基本を身に付ける。

- ・ 日常的に話型を練習する。

【視点2】友達とのかかわり

○ 話し合い活動を行う。

- ① 自分の考えをはっきり伝える。 ② 人の話を聞く。 ③ 質問する。

【視点3】自分とのかかわり

○ 自分の言いたいことを明確にする。

- ・ 分からない場合は友達の見解をよく聞いたり、相談したりする。

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

○ 話型や聞き方のモデル提示し発達段階に応じた手だてを取ることで話し方や聞き方の定着を図ることができた。

○ 一人一人の課題に応じた手だてを取り活発なやり取りが行われた。

△ 自分の考えを持ちながらも表現仕切れなかった子供への手だて。

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

○ 自力解決、ペア・グループ・全体学習とスモールステップを設けることにより考えを深めることができた。

○ クイズを出したり質問したりすることを通し、対話的な学びで認め合い学び合いができた。

○ 学習課題をより深く理解する「共有化」を図ることができた。

△ ペアやグループ学習の際一人一人の実態を的確に把握するのに時間がかかった。

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

○ ワークシートで好きなものの書き出しからクイズ形式にステップし目的や相手を意識して自分の考えを持つことができた。

△ 課題を達成したより高い意欲を持った子供に対して、学びの高め合いに発展させる指導の工夫を考えたい。

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。

○ 日々の学習で挙手が増え自信を持って発言したり質問する姿が増えた。

○ 友達に対して分からないことを質問したり、教えてあげたりする光景が多く見られるようになり、子供が戸惑うケースが減少した。

△ より高い意欲を持った子供に対してより高い学び合いを考えていきたい

△ 自分本位な発言や受け答えをする児童に対し、話をよく聞き的確な対話ができるようにさせたい。

② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。

○ 相手の考えをよく聞き学び合い認め合いのもとにねらいに沿った明確な考えを持てる子。

③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？

○ 今年度の研究の継続

2 学年 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 2 学年研究目標

説明文の指導を通して、読みの力を高め、調べたことをまとめる力を付ける

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教科とのかかわり

- 大事などころに気をつけながら文章を読み、順序性を把握しながら正確に文章を読み取ることのできる指導の工夫。
- 読み取ったことを活用して伝えたいことを整理し、表現することのできる指導過程の工夫。

【視点2】友達とのかかわり

- 調べてまとめたことを友達に伝えるための指導形態の工夫。

【視点3】自分とのかかわり

- 読書の幅を広げるための環境作りの工夫。

- (1) 視点1「教科とのかかわり」の中で
- クイズを作るためという目的を意識して文章を読み取る活動を通して、問題にできるような文章の中の大事な言葉や文を見付け出す力が付いた。
 - △重要語句をクイズ形式で問いの形に直すことが難しい児童がいたので、問題文の具体例を示すことで、問題文が作りやすくなったと思われる。
- (2) 視点2「友達とのかかわり」の中で
- 友達にクイズを出すという目的意識を持つことで、意欲的に読む姿が見られた。クイズを出した後は、相手の様子を見て、ヒントを工夫して出す姿が見られた。
 - △クイズの答えを考えることに意識が向いてしまい、質問と答えの整合性を見極め、問題文に対して助言し合うことは、難しかった。
- (3) 視点3「自分とのかかわり」の中で
- 他の動物クイズを作るために、読書コーナーを作り様々な本にふれさせることで、発展的な読書をさせることができた。友達の出題したクイズを解くことで、関連した本に向き合う姿が見られた。
- (4) 次年度の方向性について考えをお書きください。
- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。
 - 本題材に関しては、細かな所まで読み取りがしっかりできていた。文章に即して線を引いたり必要な部分を抜き出したりして、大事な語句や文章に気をつけて読むことができるようになった。
 - ② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。
 - 互いに高め合うことのできる、伝え合いの力。
 - 書いてあることをもとに要旨や主題を読み解いていく、論理的思考力。
 - ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？
 - 研究領域は特に問わない。
 - 他とのかかわり合いながら読み解いていけるような指導法の工夫。

3 学年 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 3 学年研究目標

叙述を基に自分の考えを持ち、表現できる授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教材とのかかわり

- ・単元の目標と本時の目標がつかみやすい指導計画の工夫
- ・言葉を大切にしたり読み取りの工夫
- ・主発問の吟味・精選

【視点2】友達とのかかわり

- ・相手の意見を尊重し、受け止める態度の指導
- ・根拠を挙げながら、自分の考えを表現する話し方の指導

【視点3】自分とのかかわり

- ・自分の思考の変化が分かる板書・ノートの工夫

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

- 第1次で児童が書いた短冊から単元目標と本時の目標を設定したことで、児童の学習意欲が高めることができた。
- △主発問までの授業展開や補助発問を今一度吟味しなければならない。

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

- 「聞き方のポイント」「発表の話形」を掲示したことで、基本的な態度を指導することができた。
- △ペアワークが短時間になってしまい、話形を十分に指導できなかった部分がある。日頃から、自分の考えの根拠を伝える話し方の指導を積み上げていかなければいけない。

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

- ワークシートの形式を教科書の本文と記入欄を一体化させたことで、教科書から大切な叙述を見つけられない児童や書くことに苦手意識がある児童も自分の考えを持たせることができた。
- △ノートとワークシートの役割や成果を正しく理解した上で授業に活用しなければならない。

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。
- 叙述を基に根拠を探しながら、正しく読もうとする態度が育ってきている。
- △「話す・伝える」力に個人差がある。
- ② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。
- ◎表現する力⇒（話す・書く）⇒伝える力
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？
- ◎読む領域⇒伝える力を育むための第一段階として、自分の考えを持たせるための指導を研究したい。

4 学年 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 4 学年研究目標

物語文の学習を通して、自分の考えを広げる授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教材とのかかわり

○ 人物の気持ちの変化と、中心となる人物とほかの人物とのかかわりを考えながら読むことができる指導の工夫。

・学習計画 ・内容の読み取り ・ワークシート

【視点2】友達とのかかわり

○ 友達の考えを聞いたり、自分の考えを発表したりして「思考のリレー」に参加する指導の工夫。

【視点3】自分とのかかわり

○自分の「考えの広がり」が意識できるような自己評価の工夫。

- (1) 視点1「教材とのかかわり」の中で
- ワークシートや板書を拡大して掲示したことで、これまでの学習や学習内容を振り返るのに有効だった。
 - ごんと兵十の行動を短冊に書き出し、時系列に並べることで、二人の気持ちの変化などに焦点を当ててせまることができた。
 - 中心発問に対する考えを、児童が登場人物になりきって書けるように、ワークシートに挿絵や吹き出しを活用したのは、下位群の児童には効果的だった。
 - △グループで1枚の教材文を見合って読み取ることは、難しかった。
- (2) 視点2「友達とのかかわり」の中で
- グループワークを取り入れることで、多様な考え方に触れることができた。
 - 友達の考えを青鉛筆で書き加える活動を続けてきたことで、自分の考えと友達の考えを比べて違いに気付いたり、自分の考えを広げたりすることができた。
 - △ペアやグループによっては、考えの広がりや深まりに差が出た。
 - △「思考のリレー」と言えるまでに子供同士の対話が深まらなかった。
 - △友達の考えを聞くということができていないことで、発問に対する対話が成立しなかった。
- (3) 視点3「自分とのかかわり」の中で
- ワークシートや「ごん日記」を蓄積することで、登場人物の気持ちの変化や自分の考えを確認することができた。
- (4) 次年度の方向性について考えをお書きください。
- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。
 - 友達の考えを青鉛筆で加筆したことで、目に見えて考えが増えた・広がった・深まったことを体験させると、学習したという満足度が高まった。
 - △ペアやグループワークなどを子供たちの力だけでは上手くいかないところに、教師側からもう一工夫入れなかったのが、深まりがなかった。
(深めるための「問い方」や意図的グループ編成)
 - ② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。グループワークを通して、「分かった」「できた」という経験を積み重ね、友達との対話の楽しさを味わわせたい。そのために、友達の考えを聞く、分かりやすく話す・説明する力をつけさせたい。
低学年から、グループワークやペアワーク時の話形提示。
 - ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？
「話す・聞く」

5 学年 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 5 学年研究目標

自分を見つめて考えを深めたり、友達のを聞いて深めたりする授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教材とのかかわり

- ・自分の考えを深めたり広げたりするための指導の工夫

【視点2】友達とのかかわり

- ・自分の考えを深めたり広げたりするための学習形態の工夫

【視点3】自分とのかかわり

- ・自分を見つめる場面の設定（学習の振り返り）

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

- 時代毎に書いていく「振り返りシート」は見やすく、手塚治虫の生き方を短い言葉にする際に有効なシートであったと思われる。
- 本時では、学習課題を児童に分かりやすく伝えられたため、児童自身がどんな活動をするのか、何を目標して活動するのか等を把握して学習に取り組むことができた。
- △ 振り返りシートを書かせる際、何について書くかの指示があやふやになり、書く量や内容に偏りがあったので、振り返りシートの書かせ方についてもっと吟味するべきである。

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

- グループ交流の前に「交流の仕方」を示したことは、スムーズに交流ができたうえに、友達の発表に対して頷きや拍手などがあり、発表しやすい雰囲気をつくることができた。
- △ 友達の意見を聞いて「いいな」などと思ったことを赤青鉛筆で書き足し残していくことを、日頃より継続して取り組んでいると良かった。

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

- 1枚の「振り返りシート」を使用したことは、感想文を書く際の構成メモにもなり良かった。
- △ 全体で交流する際は、考えを一方通行で終わらせないためには「自分の意見と比べてどう感じた？」などと感想を言わせて児童同士をつないでいくことが大切であろう。

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。
- 他教科でも振り返りの時間をもってきたが、自分を見つめて考えることへの抵抗が少なくなってきたように感じる。
- △ 友達の考えを聞いて“深める”ということはできなかったように感じる。教師主導で話し合いを深めていくことも必要かもしれない。
- ② 今後さらに、子供たちに身に付けさせたい力は、どのような力でしょうか。
考える力・話す力
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？
国語…領域を絞ったり、視点を統一したりするのはどうか。

6 学年 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 6 学年研究目標

自分の考えを広げたり、深めたりする授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じる事ができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教科とのかかわり

・自分の考えを広げたり、深めたりすることができるような指導過程の工夫

①学習の見通しがもてるような単元構成

②発問の工夫(主発問の吟味)

【視点2】友達とのかかわり

・自分の考えを広げたり、深めたりすることができるような学習形態の工夫

【視点3】自分とのかかわり

・学びを振り返る場面の設定（自己評価）

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

○初発の感想から課題作りにつなげたのはよかった。

○クライマックスを考えさせ、その前後で心情の変化を比較させることによって主人公の思いの変化に気付かせることができた。

○中心発問を吟味して授業を組み立てていったのはよかった。

○子供たちの考えを効率よく板書に表していく工夫（短冊の活用）がよかった。

○単元の構成（丁寧に読むところなど、押さえておくべき所）を実態に応じて考えていく。

△授業の時間配分（ペア・グループワーク、共有の場面）などは臨機応変に対応する必要がある。

△基礎基本の積み上げが必要である。

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

○（書く作業をはじめに行ってから）自分の考えを伝え合っていた。

△発問を考える際に、児童がどのような答えを出すかを事前に考え、どう正しい答えに導いていくかを考えていく必要がある。

△コミュニケーション能力の低い子に対してまわりの友達のフォロー（分かってあげる、補足してあげる、訊いてあげる）が大切。

△すぐに友達に伝えたい、頼ろうとする部分が見られる（まずは自分で）

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

○友達の考えを聞くことで自分の考えを見つめ直すきっかけとなっていた。（相手の話をしっかり聞くことが大事）

○最後に自分で主題を振り返ることが大切。

○ワークシートによって各時間の振り返りと主題の振り返りができたことがよかった。

(4) 今後更に身につけさせたい力（次年度の方向性について）

かかわり合う力

読み取る力

研究領域について

国語（領域を絞って深めていく方向でどうでしょうか）

すみれ・ひまわり学級 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 すみれ・ひまわり学級研究目標

コミュニケーション能力の育成を図る授業をつくる
身近なことや自分が経験したこと等から話題を決め、必要なことを思い出して相手に伝える能力の育成

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じる事ができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教材とのかかわり

- 大事なことを落とさずに、分かりやすい言葉で伝える力を育てる工夫
- 練習課題の設定の工夫

【視点2】友達とのかかわり

- 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く態度を育てる工夫。

【視点3】自分とのかかわり

- 以前の発表と比べて成長がわかるような指導の工夫

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

- 身に付けたい力を要素別（見る・聞く・嗅ぐ・触れる）に分けて、それぞれの要素の授業の後で、それらを統合した活動「目の前で起こっていることを詳しく伝えよう」に取り組んだので、それぞれの要素に着目して考える事ができた。
- △ 「目の前で・・・」の活動は、いろいろな要素を含んだものが必要だったが、本時の活動は見たときの印象が弱いものになってしまった。

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

- 順番に答える形式を取ったので、自分の発表を楽しみにしていた。友達の発表を聞いて、それまでは苦手にしてきた会話文を書けるようになった児童もいた。
- △ 自分の発表をするのは好きだが、発表してしまうとそれで終わりにになってしまう事が多い。

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

- △ 時期をずらして第1期、第2期と実施すると成長の様子がもっと分かるかもしれない。

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

- ① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。
- 「目の前で起こっていること」をとらえて簡単な文で書く事ができた。繰り返すことによって「聞いた音」を擬音語で伝えることができるなどクイズのやり方が分かっていった。
- △ 上位群・下位群で実態に差があるので、時間の途中で実態に応じたグループに分かれて活動するというのができれば、上位群は作文指導のようなことに発展させられたかもしれない。
- ② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。
上位群 詳しい作文につながる事
下位群 昨日のことが伝えられるように
- ③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？
国語 作文指導となると難しいところもあるが、詳しく話すためのメモ作りのように考えると

ことばの教室 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 ことばの教室研究目標

「自立活動」を通して、自信を持って自分の思いや考えを伝えることのできる授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じる事ができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教材とのかかわり

- 自分の思いや考えを持ち、進んで話したいと思える教材の工夫
- 相手により分かりやすく伝えることができる表現方法の工夫

【視点2】指導者とのかかわり

- 児童の話を引き出すことのできる関わり方の工夫
- 話すことに自信が持てるような場の設定

【視点3】自分とのかかわり

- できるようになったことの振り返りと、それを在籍学級で活かすための手立て

(1) 視点1「教材とのかかわり」の中で

- 児童の状態に合わせて、興味の持ちやすい教材を選ぶことによって自分の思いや考えを進んで話すことができた。
- 自分の思いや考えを言葉で表現させる際に、絵や映像や歌も用いることで、イメージをふくらまさせることができた。
- 発音練習では、課題の音の文字に色をつけたり、ハンドサインで舌の動きを確認したりするなど、視覚的な手掛かりを用いることによって、正しい発音を意識させることができた。
- △児童自身が書いた字や絵を使用することがなく、与えられた教材というイメージを抱きやすかった。

(2) 視点2「指導者とのかかわり」の中で

- 指導者が児童の目線に立って共に考え、会話することで、児童の話を引き出したり、会話を広げたりすることができた。
- 日頃の児童とのかかわりが、個別指導の基本となっていることを再認識した。
- △褒めて自信を持たせることと、注意を促して繰り返し練習をさせることのバランスを考えながら、うまく学習意欲を持続させる必要がある。

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

- 他の通級児童の感想を知らせることで、他とは違う自分だけの考えを見つけることができた。
- 学んだことを学校や家庭でどう生かすことができるか具体的に提案することができた。
- △児童自身の体験や今後への期待感と結びつけることがあるとさらに「自分とのかかわり」が深まったと思う。

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。

○ことばの課題が改善したことにより、学級でも自信を持って発表や音読をしたり、友達と会話を楽しんだりするなど、生き生きと学校生活を送れるようになった児童がいた。

△ 個別指導の中では他の児童との考えを共有することが難しかった。

② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。

・自分の課題を克服しようとしたり、自分から相手に伝えようとしたりする意欲。できるようになったことを学級でも生かし、自信を持って学級で友達とうまく関わったり、自分のよさを表現したりできる力。

③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？

・今年度の研究主題を継続したい。
・教科を特定しないで学年や学年部で共通していれば良いとしてはどうか。

(5) その他、お気付きの点についてお書きください。

・通級児童の在籍学級の授業の様子を見にいきたいと思っていたができないことがあり申し訳なかった。

・できるだけ多くの先生方にことばの教室の様子をお伝えできるよう努めていきたいと思う。

中学年少人数 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 中学年少人数研究目標

自分の考えを持ち、深め合う授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教科とのかかわり

- ・自分の考えを持ち、興味を持って取り組めるような工夫。
- ・問題文を3文構成にし、色分けして下線を引くなど、学習問題を把握させるための手立ての工夫。

【視点2】友達とのかかわり

- ・相手の意見を尊重し、受け止める態度の指導
- ・根拠を挙げながら、自分の考えを表現する話し方の指導
- ・ペアワークでのサイン

【視点3】自分とのかかわり

- ・自分の学びを振り返る場の設定

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

○ 色分けして下線を引くことで、文脈を意識して、式や図に表すことができるようになってきた。未知の数量に□を用いた立式の仕方が定着してきた。

△ 式と線分図の関係について理解を深めることができなかった。

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

○ ペアワークでのサインやハンドサインなどを取り入れた結果、相手を意識した話し方や聞き方が身についてきた。

△ ペアワークの組み合わせによって、伝え合いに差ができた。成立していない子供たちへの手立てが不十分であった。

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

○ 短い時間でも振り返りの時間を持つことで、達成感や次の学習への意欲付けにつながった。

△ 自己評価が低かった子供たちへの手立てが不十分であった。単元の最後に学習感想を書かせるなど、学習の定着を図るための手立て、振り返りの活用を工夫したい。

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。

○ 自分の考えを図や式、文などで書く活動を多く取り入れたことで、課題に対し主体的に取り組む子供が増えてきた。

△ 話す・伝える力に個人差がある。

② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。
自分の考えを表現する力

高学年少人数 研究成果と今後の課題

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 高学年少人数研究目標

自分の考えを広げたり、深めたりする授業をつくる

2 研究成果と今後の課題

【伸びを感じることができた点（成果）：○ 不十分な点（課題）：△】

【視点1】教科とのかかわり

- ・自分の考えを広げたり、深めたりすることができるような指導過程の工夫
- ・学習の見通しがもてるような課題作り

【視点2】友達とのかかわり

- ・自分の考えを広げたり、深めたりすることができるような学習形態の工夫

【視点3】自分とのかかわり

- ・学びを振り返る場面の設定（まとめ・学習感想）

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

- 問題文から本時の課題が何かを児童に考えさせることで、解決する内容を焦点化し学習の見通しを持たせることができた。【高学年少人数】

△ 「一文ですっきり書く」個人ワークを取り入れていきたい。【高学年少人数】

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

- ペア学習を取り入れることで、友達の意見を参考にし自分の考えをまとめることができた。【高学年少人数】

△ クラスワークの練り合いをさらに充実していく。【高学年少人数】

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

- 授業の最後にまとめや学習感想を書くことで、学びを深める振り返りができた。【高学年少人数】

△ より具体的な学習感想を書く力を付けていきたい。【高学年少人数】

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。

- 自分の考えを構築するには、算数科においても「ことばの力」が必要である。どのような学習用語を使いどのような文章で論理立てて説明するべきなのか意識するようになった。【高学年少人数】

② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか。

③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？
教師の教材研究、教師自身がことばの力をつけること【高学年少人数】

(5) その他、お気付きの点についてお書きください。

少人数指導の学習形態を生かした指導【高学年少人数】

中高少人数指導の連携【高学年少人数】

研究主題

考える力を育む授業をつくる～国語科の指導の工夫を通して～

1 研究成果と今後の課題

(1) 視点1「教科とのかかわり」の中で

話す聞く

- 話型や聞き方のモデル提示し発達段階に応じた手だてを取ることで話し方や聞き方の定着を図ることができた。【1学年】
- 児童の状態に合わせて、興味の持ちやすい教材を選ぶことによって自分の思いや考えを進んで話すことができた。【ことば】

書く

- △ 振り返りシートを書かせる際、何について書くかの指示があやふやになり、書く量や内容に偏りがあったので、振り返りシートの書かせ方についてもっと吟味するべきである。【5学年】

読み取り

- クイズを作るためという目的を意識して文章を読み取る活動を通して、問題にできるような文章の中の大事な言葉や文を見付け出す力が付いた。【2学年】
- クライマックスを考えさせ、その前後で心情の変化を比較させることによって主人公の思いの変化に気付かせることができた。【6学年】
- △ グループで1枚の教材文を見合って読み取ることは、難しかった。【4学年】

学び方

- 一人一人の課題に応じた手だてを取り活発なやり取りが行われた。【1学年】
- 第1次で児童が書いた短冊から単元目標と本時の目標を設定したことで、児童の学習意欲が高めることができた。【3学年】
- 本時では、学習課題を児童に分かりやすく伝えられたため、児童自身がどんな活動をするのか、何を目標として活動するのか等を把握して学習に取り組むことができた。【5学年】
- 初発の感想から課題作りにつなげたのはよかった。【6学年】
- 発音練習では、課題の音の文字に色をつけたり、ハンドサインで舌の動きを確認したりするなど、視覚的な手掛かりを用いることによって、正しい発音を意識させることができた。【ことば】
- 色分けして下線を引くことで、文脈を意識して、式や図に表すことができるようになってきた。未知の数量に□を用いた立式の仕方が定着してきた。【中学年少人数】
- △ 基礎基本の積み上げが必要である。【6学年】
- △ 「目の前で・・・」の活動は、いろいろな要素を含んだものが必要だったが、本時の活動は見たときの印象が弱いものになってしまった。【すみれ・ひまわり】

学ばせ方

→発問

- 中心発問に対する考えを、児童が登場人物になりきって書けるように、ワークシートに挿絵や吹き出しを活用したのは、下位群の児童には効果的だった。【4学年】
- 中心発問を吟味して授業を組み立てていったのはよかった。【6学年】
- △ 主発問までの授業展開や補助発問を今一度吟味しなければならない。【3学年】

→思考

- ごんと兵十の行動を短冊に書き出し、時系列に並べることで、二人の気持ちの変化などに焦点を当ててせまることができた。【4学年】
- 子供たちの考えを効率よく板書に表していく工夫（短冊の活用）がよかった。【6学年】
- 単元の構成（丁寧に読むところなど、押さえておくべき所）を実態に応じて考えていく。【6学年】

- 身に付けたい力を要素別（見る・聞く・嗅ぐ・触れる）に分けて、それぞれの要素の授業の後で、それらを統合した活動「目の前で起こっていることを詳しく伝えよう」に取り組んだので、それぞれの要素に着目して考えることができた。【すみれ・ひまわり】
- 自分の思いや考えを言葉で表現させる際に、絵や映像や歌も用いることで、イメージをふくらまさせることができた。【ことば】
- △ 自分の考えを持ちながらも表現仕切れなかった子供への手だて。【1 学年】
- △ 重要語句をクイズ形式で問いの形に直すことが難しい児童がいたので、問題文具体例を示すことで、問題文が作りやすくなったと思われる。【2 学年】
- △ 児童自身が書いた字や絵を使用することがなく、与えられた教材というイメージを抱きやすかった。【ことば】
- 問題文から本時の課題が何かを児童に考えさせることで、解決する内容を焦点化し学習の見通しを持たせることができた。【高学年少人数】
- △ 式と線分図の関係について理解を深めることができなかった。【中学年少人数】
- △ 「一文ですっきり書く」個人ワークを取り入れていきたい。【高学年少人数】
- 振り返り**
- ワークシートや板書を拡大して掲示したことで、これまでの学習や学習内容を振り返るのに有効だった。【4 学年】
- 時代毎に書いていく「振り返りシート」は見やすく、手塚治虫の生き方を短い言葉にする際に有効なシートであったと思われる。【5 学年】
- 学習時間**
- △ 授業の時間配分（ペア・グループワーク、共有の場面）などは臨機応変に対応する必要がある。【6 学年】

(2) 視点2「友達とのかかわり」の中で

かかわり

- 自力解決、ペア・グループ・全体学習とスモールステップを設けることにより考えを深めることができた。【1 学年】
- クイズを出したり質問したりすることを通し、対話的な学びで認め合い学び合いができた。【1 学年】
- 学習課題をより深く理解する「共有化」を図ることができた。【1 学年】
- 友達にクイズを出すという目的意識を持つことで、意欲的に読む姿が見られた。クイズを出した後は、相手の様子を見て、ヒントを工夫して出す姿が見られた。【2 学年】
- グループワークを取り入れることで、多様な考え方に触れることができた。【4 学年】
- ペア学習を取り入れることで、友達の意見を参考にし自分の考えをまとめることができた。【高学年少人数】
- △ ペアやグループによっては、考えの広がりや深まりに差が出た。【4 学年】
- △ 「思考のリレー」と言えるまでに子供同士の対話が深まらなかった。【4 学年】
- △ 友達の考えを聞くということができていないことで、発問に対する対話が成立しなかった。【4 学年】
- △ コミュニケーション能力の低い子に対してまわりの友達のフォロー（分かってあげる、補足してあげる、訊いてあげる）が大切。【6 学年】
- △ すぐに友達に伝えたい、頼ろうとする部分が見られる（まずは自分で）【6 学年】
- △ クラスワークの練り合いをさらに充実していく。【高学年少人数】

モデル

- 「聞き方のポイント」「発表の話形」を掲示したことで、基本的な態度を指導することができた。【3 学年】
- グループ交流の前に「交流の仕方」を示したことは、スムーズに交流ができたうえに、友達の発表に対して頷きや拍手などがあり、発表しやすい雰囲気をつくることができた。【5 学年】
- 友達の発表を聞いて、それまでは苦手にしてきた会話文を書けるようになった児童もいた。【すみれ・ひまわり】
- ペアワークでのサインやハンドサインなどを取り入れた結果、相手を意識した話し方

や聞き方が身についてきた。【中学年少人数】

- △ ペアワークが短時間になってしまい、話形を十分に指導できなかつた部分がある。日頃から、自分の考えの根拠を伝える話し方の指導を積み上げていかなければいけない。【3学年】

表現

- （書く作業をはじめに行ってから）自分の考えを伝え合っていた。【6学年】
- 順番に答える形式を取ったので、自分の発表を楽しみにしていた【すみれ・ひまわり】
- △ 自分の発表をするのは好きだが、発表してしまうとそれで終わりにになってしまう事が多い。【すみれ・ひまわり】

学ばせ方

- 友達の考えを青鉛筆で書き加える活動を続けてきたことで、自分の考えと友達の考えを比べて違いに気付いたり、自分の考えを広げたりすることができた。【4学年】
- △ ペアやグループ学習の際、一人一人の実態を的確に把握するのに時間がかかった。【1学年】
- △ クイズの答えを考えることに意識が向いてしまい、質問と答えの整合性を見極め、問題文に対して助言し合うことは、難しかった。【2学年】
- △ 友達の意見を聞いて「いいな」などと思ったことを赤青鉛筆で書き足し残していくことを、日頃より継続して取り組んでいると良かった。【5学年】
- △ 発問を考える際に、児童がどのような答えを出すかを事前に考え、どう正しい答えに導いていくかを考えていく必要がある。【6学年】
- △ ペアワークの組み合わせによって、伝え合いに差ができた。ペアワークが成立していない子供たちへの手立てが不十分であった。【中学年少人数】

(3) 視点3「自分とのかかわり」の中で

共有

- ワークシートで好きなものの書き出しからクイズ形式にステップし目的や相手を意識して自分の考えを持つことができた。【1学年】
- 友達の考えを聞くことで自分の考えを見つめ直すきっかけとなっていた。(相手の話をしっかり聞くことが大事)【6学年】
- 他の通級児童の感想を知らせることで、他とは違う自分だけの考えを見つけることができた。【ことば】
- △ 全体で交流する際は、考えを一方通行で終わらせないためには「自分の意見と比べてどう感じた？」などと感想を言わせて児童同士をつないでいくことが大切で。【5学年】

学ばせ方

- ワークシートの形式を教科書の本文と記入欄を一体化させたことで、教科書から大切な叙述を見つけられない児童や書くことに苦手意識がある児童も自分の考えを持たせることができた。【3学年】
- ワークシートや「ごん日記」を蓄積することで、登場人物の気持ちの変化や自分の考えを確認することができた。【4学年】
- 1枚の「振り返りシート」を使用したことは、感想文を書く際の構成メモにもなり良かった。【5学年】
- 最後に自分で主題を振り返ることが大切。【6学年】
- ワークシートによって各時間の振り返りと主題の振り返りができたことがよかった。【6学年】
- 短い時間でも振り返りの時間を持つことで、達成感や次の学習への意欲付けにつながった。【中学年少人数】
- 授業の最後にまとめや学習感想を書くことで、学びを深める振り返りができた。【高学年年少人数】
- △ ノートとワークシートの役割や成果を正しく理解した上で授業に活用しなければいけない。【3学年】
- △ 時期をずらして第1期、第2期と実施すると成長の様子がもっと分かるかもしれない。【すみれ・ひまわり】
- △ 児童自身の体験や今後への期待感と結びつけることがあるとさらに「自分とのかかわ

- り」が深まったと思う。【ことば】
- △ 毎時間、45分のなかで適用問題や振り返りができる時間配分を心がけたい。【中学
年少人数】
- △ より具体的な学習感想を書く力を付けていきたい。【高学年少人数】

発展

- 他の動物クイズを作るために、読書コーナーを作り様々な本にふれさせることで、発展的な読書をさせることができた。友達の出題したクイズを解くことで、関連した本に向き合う姿が見られた。【2学年】
- 学んだことを学校や家庭でどう生かすことができるか具体的に提案することができた。【ことば】
- △ 課題を達成したより高い意欲を持った子供に対して、学びの高め合いに発展させる指導の工夫を考えたい。【1学年】

(4) 次年度の方向性について考えをお書きください。

① 今年度、研究主題に沿った私たちの取組で、子供たちの変容や実態をお書きください。

読み取り

- 本題材に関しては、細かな所まで読み取りがしっかりできていた。文章に即して線を引いたり必要な部分を抜き出したりして、大事な語句や文章に気をつけて読むことができるようになった。【2学年】
- 叙述を基に根拠を探しながら正しく読もうとする態度が育ってきている。【3学年】

意欲向上

- 日々の学習で挙手が増え自信を持って発言したり質問する姿が増えた。【1学年】
- 「目の前で起こっていること」をとらえて簡単な文で書くことができた。繰り返すことによって「聞いた音」を擬音語で伝えることができるなどクイズのやり方が分かっていった。【すみれ・ひまわり】
- ことばの課題が改善したことにより、学級でも自信を持って発表や音読をしたり、友達と会話を楽しんだりするなど、生き生きと学校生活を送れるようになった児童がいた。【ことば】
- どの課題においても自分の考えを持ち、式や文章、図などで表現しようという姿勢が見えてきた。【中学年少人数】
- 自分の考えを構築するには、算数科においても「ことばの力」が必要である。どのような学習用語を使いどのような文章で論理立てて説明するべきなのか意識するようになった。【高学年少人数】

振り返り

- 他教科でも振り返りの時間をもってきたが、自分を見つめて考えることへの抵抗が少なくなってきたように感じる。【5学年】

共有

- 友達の考えを青鉛筆で加筆したことで、目に見えて考えが増えた・広がった・深まったことを体験させると、学習したという満足度が高まった。【4学年】

支援

- 友達に対して分からないことを質問したり、教えてあげたりする光景がよく見られるようになり、子供が戸惑うケースが減少した。【1学年】
- △ より高い意欲を持った子供に対してより高い学び合いを考えていきたい。【1学年】
- △ 自分本位な発言や受け答えをする児童に対し、話をよく聞き的確な対話ができるようにさせたい。【1学年】
- △ 「話す・伝える」力に個人差がある。【3学年】
- △ ペアやグループワークなどを子供たちの力だけでは上手くいかないところに、教師側からもう一工夫入れなかったのが、深まりがなかった。(深めるための「問い方」や意図的グループ編成)【4学年】
- △ 友達の考えを聞いて“深める”ということはできなかつたように感じる。教師主導で話し合いを深めていくことも必要かもしれない。【5学年】
- △ 上位群・下位群で実態に差があるので、時間の途中で実態に応じたグループに分かれて活動するということができれば、上位群は作文指導のようなことに発展させられたか

- もしれない。【すみれ・ひまわり】
→△ 個別指導の中では他の児童との考えを共有することが難しかった。【ことば】

② 今後さらに、子供たちに身につけさせたい力は、どのような力でしょうか？

話す聞く

- 相手の考えをよく聞き学び合い認め合いのもとにねらいに沿った明確な考えを持てる子。【1学年】
→○ 表現する力⇒（話す）【3学年】
→○ グループワークを通して、「分かった」「できた」という経験を積み重ね、友達との対話の楽しさを味わわせたい。そのために、友達の考えを聞く、分かりやすく話す・説明する力をつけさせたい。【4学年】
→○ 低学年から、グループワークやペアワーク時の話形提示。【4学年】
→○ 考える力。話す力。【5学年】

読む

- 書いてあることをもとに要旨や主題を読み解いていく、論理的思考力。【2学年】
→○ 読み取る力【6学年】

書く

- 表現する力⇒（書く）【3学年】
→○ 上位群→詳しい作文につながる。【すみれ・ひまわり】

伝え合う

- 互いに高め合うことのできる、伝え合いの力。【2学年】
→○ 表現する力⇒（伝える力）【3学年】
→○ かかわり合う力【6学年】
→○ 下位群→昨日のことが伝えられるように【すみれ・ひまわり】
→○ 自分の課題を克服しようとしたり、自分から相手に伝えようとしたりする意欲。できるようになったことを学級でも生かし、自信を持って学級で友達とうまく関わったり、自分のよさを表現したりできる力。【ことば】
→○ 算数の言葉をつかって自分の考えを伝える【中学年少人数】

③ そのためには、どのような手立てや研究領域を設定すれば良いでしょうか？

国語

- 話す・聞く
→ 「話す・聞く」【4学年】
→言語
→教師の教材研究，教師自身がことばの力をつけること【高学年少人数】
→書く
→ 作文指導となると難しいところもあるが，詳しく話すためのメモ作りのように考えると【すみれ・ひまわり】
→読む
→ 他とかかわり合いながら読み解いていけるような指導法の工夫。【2学年】
→ 読む領域⇒伝える力を育むための第一段階として，自分の考えを持たせるための指導を研究したい。【3学年】
→今年度の継続
→ 今年度の研究の継続【1学年】
→ 研究領域は特に問わない。【2学年】
→ 今年度の研究主題を継続したい。【ことば】
→領域を絞る
→ 領域を絞ったり，視点を統一したりするのはどうか。【5学年】
→ 領域を絞って深めていく方向でどうでしょうか【6学年】

他教科

- 教科を特定しないで学年や学年部で共通していれば良いとしてはどうか。【ことば】

2 考察

(1) 研究の成果

- ① 話す聞く活動の取組から
→ モデルを示すことによる学習の進め方が有効であることが確かめられた。
- ② 児童に対する学ばせ方から
→ 発問を吟味することにより、児童の思考の深まりや多様な意見が発言されるなど、学ばせることに深くつながることが確かめられた。
- ③ モデルを示すことの有効性
→ 友達の取組をまねしたり、学習の進め方に沿って学んだりすることにより、抵抗なく課題に取り組む児童がより多くなることが確かめられた。
- ④ 共有すること
→ 友達と考え共有することにより、自分の考えに自信を持ったり、自分の考えを深めたりすることに有効であることが確かめられた。

(2) 課題

- ① 思考を深めさせるための有効な手立て
→ かかわり方を学ばせていく
→ **考える力を高める必要性**
→ 考える力を高める指導法や実践を積み重ねていくこと。

3 次年度への方向性（案）

(1) 校内研究について

- ① 教科について
国語
- ② 領域について
 - i 単元すべてに話す、聞く、書くが含まれている場合が多い。
 - ii 児童の実態に応じて、学年ごとに領域を設定した方が良い。
→ 領域を絞ることによって、指導が難しい場面も出てくるのではないか
- ③ 主題について
考える力を育む授業をつくる
- ④ 副題について
～国語科の指導の工夫を通して～
- ⑤ 方向性
 - i 今年度の研究をベースとした継続研究
→ それぞれの視点の課題を洗い出す
→ 課題を改善するような具体的な手立てを設定する（新年度初め）
→ 新たな視点を設定する
 - ii 見通しを持った授業づくり
→ ショートスパンとロングスパン

(2) 学習の約束について【A3 版掲示用】

- ① 学習習慣をしっかりと身につけさせること
→ 学習の心構え
→ 下敷きをしく、削ってある鉛筆を持ってくる、定規を使って線を引くなど
- ② 子供たちの授業への取組を把握するために
→ ハンドサインの活用
→ ハンドサインにて、その時間の学級全体の課題に対する児童の様子を把握し、その後の授業の組み立てに活用する。